

剤形変更を提案することでアドヒアランス向上に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者の訴えを聴取し、剤形変更を提案することでアドヒアランスの向上に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶原疾患の治療目的で入院された患者
※原疾患に伴い、入院時に嚥下困難が出現していた。

【持参薬（一部抜粋）】
ネキシウムカプセル 10mg 1日1回 朝食後



Aさん

持参薬確認時

Aさん、今服用している薬で、困っていることはありますか。

薬を飲みこめなくなってしまって、今は水に溶かして飲んでいますが。胃薬（ネキシウムカプセル）は、飲めないからカプセルを開けているのですが、それが面倒ですね。

そうだったんですね。同じ成分で、水に懸濁させて飲む粉薬がありますので、そちらに変更することも可能です。医師に確認しておきましょうか。

それは助かります。お願いします。



Aさん



薬剤師

医師にネキシウム懸濁用顆粒分包への変更を提案し、入院後の薬剤は変更となった。

Aさん、ネキシウムの剤形が変更となりましたが、問題なく飲めていますか。

飲むのが簡単になって助かりました。ありがとうございました。



その後もネキシウム懸濁用顆粒分包で内服を継続され退院となった。患者の訴えを聴取し、剤形変更を提案することでアドヒアランスの向上に貢献できた。